



第 **6** 期決算のご報告
BUSINESS REPORT
平成18年4月1日～平成19年3月31日



MOTHER FOOD
SHIDAX 





MOTHER FOOD SHIDAX

目 次

株主の皆様へ	1
連結決算のポイント	2
連結データハイライト	3
部門別の報告	4
クローズアップ	6
トピックス	8
連結財務諸表	10
単体財務諸表	12
会社情報	13

株 主 の 皆 様 へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成18年4月1日から平成19年3月31日に至る当社グループの第6期の決算のご報告をするにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

当社グループは、マザーフードの概念をベースに健康で快適な生活を願う人々の声、豊かさの価値を求める社会のニーズに対し、食を通じ高い品質のサービスを提供し、「健康を創る」を経営理念としております。その理念の下、安心・安全を第一に、品質の高い食材を一括仕入れすることによるクオリティー管理をしております。また、給食事業及びレストランカラオケ事業のリーディングカンパニーとして、それぞれのお客様のニーズにお応えするための専門性を常に追求しております。

また、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付けており、競争力及び企業体質の強化を図るための内部留保に努めるとともに、収益の状況に対応した配当を行うことを基本方針としております。以上の考え方を踏まえ、平成19年3月期の1株当たり年間配当金は、1,500円とさせていただきます。

今後は、新たにシダックスグループに加わった大新東株式会社とのシナジーにより、食の領域を大きく超えて、幅広い分野にわたるサービスを総合的に提供できる体制となったことで、「食」以外のサービスも拡充し「総合フードサービス企業」から「総合サービス企業グループ」を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

代表取締役社長

志太 勤一



連結決算のポイント

決算概況

当社はグループ経営の効率向上を目的として、経営戦略を策定し、重要な経営資源である人材、ノウハウ、資金、情報の最適配分を行い、事業子会社に対し適切な経営指導を行ってまいりました。

当期においては、当社グループの事業優位である水平・垂直統合型グループ構造のもと「食」を中心とした事業展開を強化してまいりました。当社グループにおいて平成18年6月12日付で株式会社小林事務所の「飲食事業、システム事業及びプランニング事業より構成される営業の全部」を当社子会社が事業譲受、平成18年6月28日付でRestaurant Hospitality, LLC及び同社を通じて米国にてスペシャリティーレストランチェーンを展開するPatina Restaurant Group, LLC他14社を取得、平成18年9月1日付でトランスフィールド株式会社よりスイーツ業態を当社子会社が事業譲受、平成18年10月27日付で当社子会社が国内フードサービス株式会社を取得するなど事業領域の拡大を図ってまいりました。

グループ構造の強化

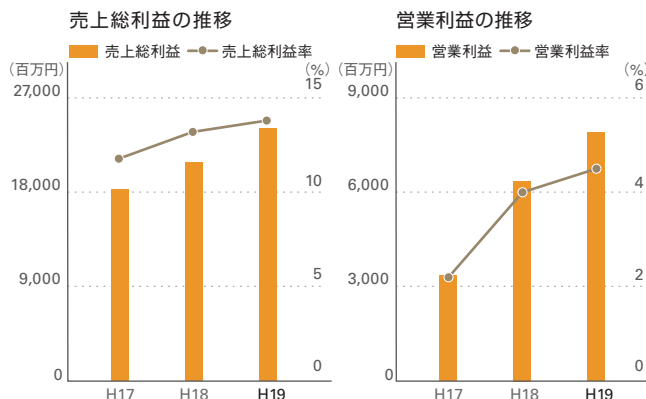
当期は、連結営業利益が7,908百万円(前期比24.3%増)と過去最高を更新し、当社グループが進めてきました水平・垂直統合型事業展開において、その効果が表れてきました。その効果としては、垂直統合による当社グループ店舗・事業所への食材供給を担うエスロジックス事業において、スケールメリットを生かした食材及び消耗品の一括調達が一層進捗したことで営業利益率が向上しました。

水平展開においても同業他社から米国高級レストランチェーン等、さまざまなM&Aにより事業範囲を拡大してきたことに加え、レストランカラオケ事業においてはコスト削減を徹底したことにより連結売上高、連結営業利益の増加に大きく寄与しました。

コントラクトフードサービス事業とメディカルフードサービス事業においては各営業開発部門を営業開発事業本部として統合・再編成し、情報を集約することで新規顧客開発力を強化いたしました。これらの施策により、当社グループの総合力を一層拡大することができました。

財政面においては、固定資産の減損会計に係る会計基準を適用し2,733百万円の減損損失を計上いたしました。一方、店舗保証金の返還請求権の流動化により1,697百万円、借入及び社債の発行により33,651百万円の資金調達を行い、主にM&Aに係る資金需要に充当いたしました。

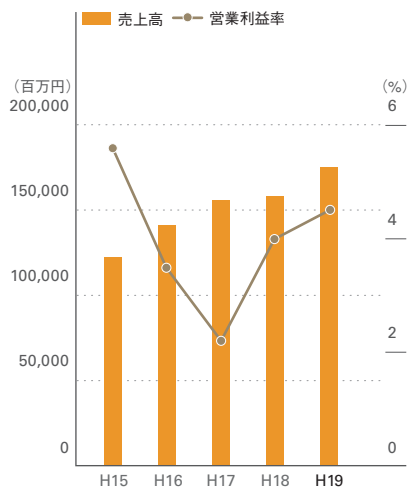
以上の結果、当期の連結売上高は175,150百万円(前期比10.9%増)、連結営業利益は7,908百万円(前期比24.3%増)、連結経常利益は7,939百万円(前期比31.8%増)、連結当期純利益は1,527百万円(前期比151.4%増)となりました。



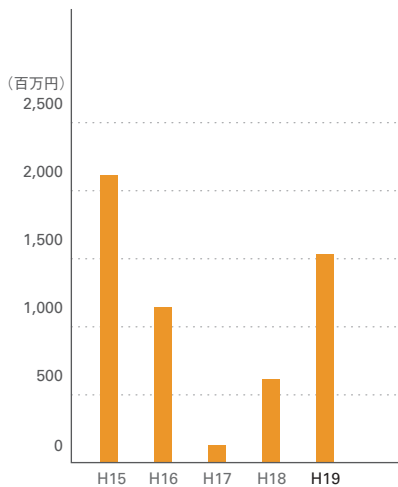


連結データハイライト

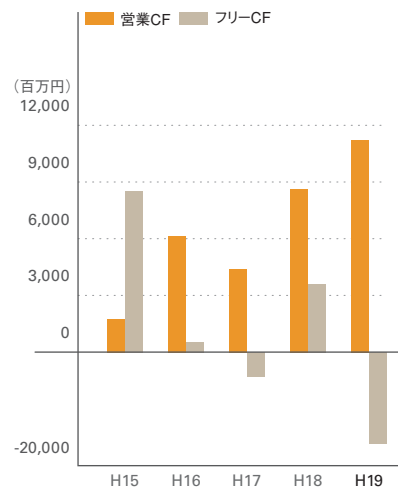
売上高／営業利益率



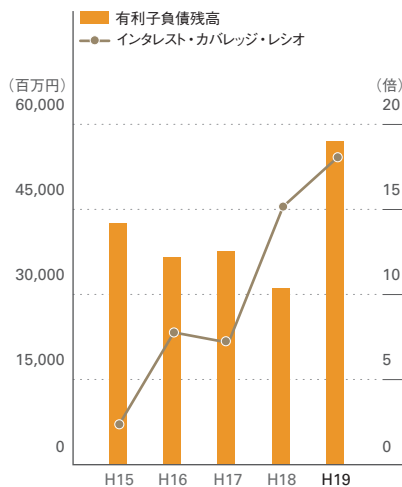
当期純利益



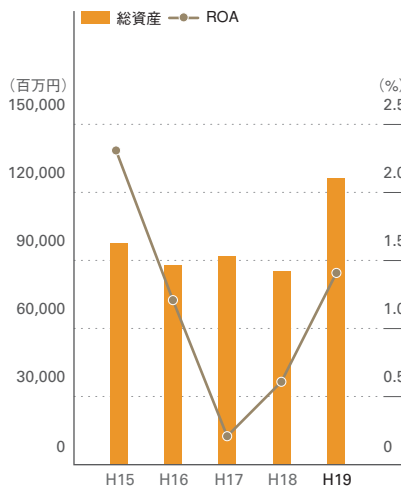
営業CF／フリーCF



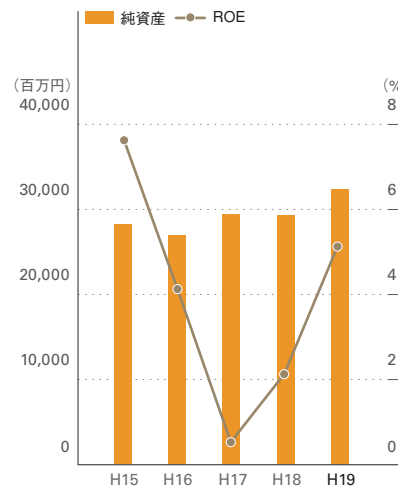
有利子負債残高／ インタレスト・カバレッジ・レシオ



総資産／ROA



純資産／ROE



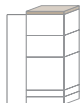


部門別の報告

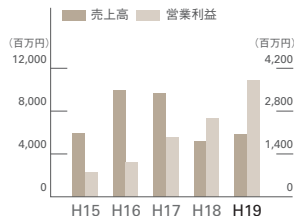


エスロジックス 事業

売上高構成比 **3.4%**



売上高・営業利益推移



売上高 5,876百万円 (前期比 12.9%増)
営業利益 3,812百万円 (前期比 49.3%増)

プロフィール

スケールメリットを生かした食材・消耗品の一括発注と、三温度帯での一括配送によりグループ内へ食材を提供しています。また、食材もトレーサビリティや品質管理を標準化し、安全性と信頼性の高さを確保しています。

当期の施策

食材購買の物流体制については、全国41箇所の物流拠点を活用することで各事業部門の店舗及び事業所などへの食材供給が堅調に進み、共同購買機構を活用した食材購買のスケールメリット効果も着実に表れてきました。消耗品の一元物流においても、原油等の資源高騰の影響が依然としてあるものの、グループ全体の消耗品規格を整理・統合、一元化を進めたことによって順調に推移しました。

関連子会社

エス・ロジックス株式会社
食材販売業務
シダックスエンジニアリング株式会社
消耗品販売業務等

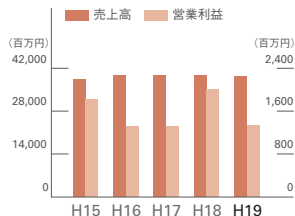


コントラクト フードサービス事業

売上高構成比 **22.4%**



売上高・営業利益推移



売上高 39,321百万円 (前期比 3.0%増)
営業利益 1,342百万円 (前期比 34.2%減)

プロフィール

企業（オフィス、工場、保養施設）、学校、官庁などの食堂を中心に高付加価値なメニューを提供するなど、高品質の給食サービスを提供しています。また、シダックスデリカクリエイツ（株）はセントラルキッチンを利用した食事提供を行っています。

当期の施策

独自ブランド『健美創菜』の展開、『マザーフードメニューフェア』の実施など、同業他社との差別化、メニューの付加価値化によるお客様の満足度向上を図りました。店舗運営では、エスロジックス事業との連携により標準メニューの導入店舗数が1,000店舗を達成しオペレーション効率を向上させました。

※当期より外食レストラン業態の売上高をスペシャルティレストラン事業（新セグメント）へ移管しております。

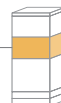
関連子会社

シダックスフードサービス株式会社
シダックスフードサービス北海道株式会社
国内フードサービス株式会社

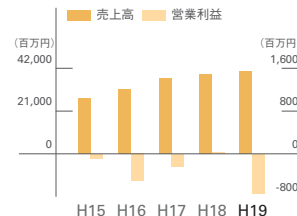


メディカル フードサービス事業

売上高構成比 **23.0%**



売上高・営業利益推移



売上高 40,336百万円 (前期比 3.2%増)
営業損失 746百万円 (前期は18百万円の利益)

プロフィール

病院（患者食、職員食堂）をはじめ老人福祉施設、養護老人ホーム、ケアハウス、あるいは在宅高齢者の方々に栄養バランスだけでなく、“美味しさ”も楽しんでいただける高付加価値の食事サービスを追求しています。

当期の施策

医療保険制度や介護保険法の改正による診療報酬改訂の影響に伴い、受託する病院や老人保健福祉施設等、事業所の約半数で契約変更が発生するなど、経営環境は厳しさを増しています。当期においては、新設した営業開発事業本部による情報の集約、付加価値の高い営業提案などグループ総合力を活かした営業開発等に取り組んだことによって、新規受託の拡大につながりました。

シダックスデリカクリエイツ株式会社
エス・ミール株式会社
給食の受託運営業務等

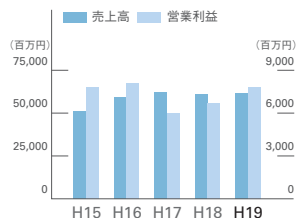


レストラン カラオケ事業

売上高構成比 **35.3%**



売上高・営業利益推移



売上高 61,791百万円 (前期比 1.0%増)
営業利益 7,807百万円 (前期比 16.8%増)

プロフィール

カラオケと食を融合したレストランカラオケを全国で展開しています。また、レストラン並みの食事サービスに加え、地域密着型のカルチャースクール、福祉活動支援、各種イベントなど町のコミュニティスペースとしてのサービスも提供しています。

当期の施策

新会員システムを活用しお客様の動向にあわせたマーケティングを積極的に展開しました。同時に、従業員教育、店舗のクレンリネス、食事メニューの主要原産地表示やカロリー表示、施設設備の再確認等を徹底し、お客様に安心してご利用頂ける店舗づくりに取り組みました。お客様単価は既存店前年同期比103.4%、お客様来店数は既存店前年同期比97.6%となり、売上高の既存店前年同期比は100.9%となりました。

関連子会社

シダックス・コミュニティー株式会社
レストランカラオケ業務等

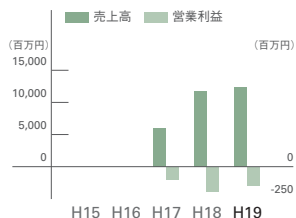


コンビニエンス 中食事業

売上高構成比 **7.1%**



売上高・営業利益推移



売上高 12,365百万円 (前期比 4.7%増)
営業損失 143百万円 (前期は214百万円の損失)

プロフィール

病院、企業、官公庁、大学・短期大学、オフィスビル等において食料品、日用品、衣料品、書籍・雑誌・新聞、医療衛生用品等を販売する売店の受託運営を行っています。

当期の施策

新規店の開発に最注力したことにより、平成18年1月以降は順調に新規の案件を獲得してきました。また、既存店舗の改装による店舗年齢の若返りによって、既存店の解約が沈静化しました。さらに、売店運営に限らず床頭業者等と提携し、委託先の周辺業務の一括受注にも注力しており成果が上がり始めています。

関連子会社

シダックスアイ株式会社
食料品、日用品、医療衛生用品等を販売する売店の受託運営

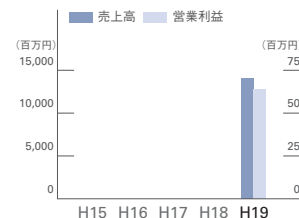


スペシャリティール レストラン事業

売上高構成比 **8.0%**



売上高・営業利益推移



売上高 14,054百万円
営業利益 64百万円

プロフィール

主に米国の主要都市や東京都渋谷駅周辺など集客性の高い立地にレストランを出店し、上質な食事・サービス・空間を提供しています。また、白金台を中心に「レトルダムール」ブランドでスイーツを展開しています。従来、コントラクトフードサービス事業に含まれていた外食レストラン業態をスペシャリティールレストラン事業として新セグメントといたしました。

当期の施策

当社グループでは、国内において東京都渋谷駅周辺の集客性の高い立地を生かしたレストランの運営およびメニュー開発に注力しお客様数増加と収益力向上を図ってまいりました。また下期より米国において高いブランド力を誇りスペシャリティールレストランチェーンを展開するPatina Restaurant Group, LLC等を連結子会社化したことにより、海外売上高が11,242百万円となりました。

関連子会社

シダックスレストランマネジメント株式会社
ヴァスフードサービス株式会社
Patina Restaurant Group, LLC他



総合フードサービス企業から総合サービス企業グループへ

これまでシダックスグループは、水平・垂直統合型事業展開により、スケールメリットを活かした拡大戦略を進めてきました。そのなかで、M&Aやアライアンスを通じてフードサービス産業領域において食のフィールドを広げるとともに、多様化するお客様ニーズに応じてきました。このたび、大新東をシダックスグループに加え、「食」とさまざまなサービスが提供可能な総合サービス企業グループへと事業領域を拡大していきます。



シダックスグループを取り巻く事業環境

シダックスグループは、コントラクトフードサービス事業やメディカルフードサービス事業、コンビニエンス中食事業において、官公庁や公立病院、公立小中学校の給食業務や売店業務などを請負っており、一部では公共施設の管理・運営も行っています。昨今は、政府による構造改革・規制改革のなかで、官業の民営化の流れが加速しており、食事サービスのみならず、従来公営であった「道の駅」「観光ホテル」「ビジネスホテル」「レストハウス」等、施設管理等の付随業務を含めた一括アウトソーシングが広がっています。公共サービス事業や車両管理事業、学校給食事業など公営業務が民営化された場合、創出する市場規模は約4兆5千億円と見込まれており、民間における各種アウトソーシング市場規模も含めると約9兆円とも言われています。シダックスは大新東とともにグループ全体で拡大するアウトソーシングマーケットで受託拡大を図っていきます。



2003年4月
シダックスレストランマネジメント株式会社による外食事業への参入



2003年10月
シダックスデリカクリエイツ株式会社によるセントラルキッチン活用のノウハウを取得

2004年12月
シダックスアイ株式会社においてコンビニエンス中食事業へ参入



2006年6月
株式会社小林事務所より事業譲受

大新東のグループ化とその効果

大新東は自動車管理をはじめ、自治体の業務を一括して受託するなどトータルアウトソーサーとして事業を展開しています。今回シダックスは大新東と資本提携を行い、大新東株式52.64%（議決権ベース）を取得し、業務提携契約を締結いたしました。これにより、今後急速な拡大が期待される官業の民営化案件の受託にあたり、一括アウトソーシングにおける受託可能サービスが拡大できるほか、営業ネットワークを最大限に活用し、従来各社では不可能であった事業分野への進出と付加価値の増大を図ることができるようになりました。

この業務提携により、シダックスはお客様に対し大新東の車両運行管理や各種施設の運営管理、OA事務等多岐にわたる社会サービスを提供することが可能となり、既にシダックスが給食業務を受託している民間企業や今後拡大が見込まれる自治体等業務の民営化により創出される市場において、食事をはじめ施設運営・管理等のさまざまなサービスを提供できる「総合サービス企業グループ」体制となりました。

大新東は、社会サービス事業の拡大に不可欠となっている「食」に係る専門知識や経験を吸収し競争力を高めることが可能となり、シダックスの幅広い顧客基盤の活用、営業拠点や人員の相互活用、消耗品の一元購入機能を利用したコスト削減、シダックスの知名度活用による宣伝効果等のメリットが見込めます。

官業の民営化により創出される市場は、今後3年で市場として確立されてくることが予測されます。大新東との資本提携と相乗効果によるメリットを活かし、アウトソース市場のなかで実績を重ね基盤を固めると共に複合的なサービス提供による他社との差別化戦略でアウトソーシング需要を確実に取り込んでいきます。

2006年9月
トランスフィールド株式会社より
スイーツ事業譲受

2007年3月
大新東株式会社
連結子会社化



2006年6月
Restaurant Hospitality,
LLC及び同社を通じて
Patina Restaurant Group,
LLC他14社を取得



2006年10月
国内フードサービス株式会
社を連結子会社化

戦略的展開としての プロジェクト構想

- 1 給食やレストランにおける食材の供給ルートを広範囲に確保するために、両社による低コストの「食材センター」の全国展開
- 2 大新東の自治体ネットワークを活かし、レストランカラオケ店舗をカラオケの場から高齢者を中心とした地域住民が食事と趣味が楽しめる憩いの場としての「コミュニティーセンター」化の展開
- 3 両社のノウハウを活かし、現場に従事する社員の募集、教育指導、人事制度の共同構築を推進し、お客様から信頼される人材の育成と安定供給ひいては定着率向上を図りコスト競争力の強化



レストランカラオケ事業の状況

レストランカラオケ事業を取り巻く環境は、カラオケ同業者間の競争が激しさを増すと同時に、さまざまな社会問題も提起されるなど厳しい状況となりましたが、既存店のブラッシュアップに注力し、サービスの向上を行ってきました。

■ 上質な食事・空間のご提供

レストランカラオケシダックスはお客様により上質な時間がお過ごし頂ける取組みを始めています。ちょっと高級なお食事「セレブスタイルメニュー」のご提供を始めたほか、ちょっと贅沢な空間として「ゴールドルーム」「スペシャルルーム」などを拡充し、空間演出による付加価値を提供したこともあり、お客様単価は既存店前年比103.4%となりました。



セレブスタイルメニュー、ゴールドルーム、スペシャルルーム

■ 販売促進力の強化

営業力強化策としては、年末年始にかけてのテレビCM放映やDMの送付、人気キャラクター「ガチャピン」の名誉店長就任など、販売促進の強化を図りました。また、主婦・ファミリー層向けにお得なランチ・お子様ランチなど食事メニューを充実させたほか、「おおきなキッズルーム」の設置店舗を拡充させ、ご家族でのご利用促進につなげました。その結果、年末年始の昼～夕方(11時～20時)時間帯におけるお客様数が前期より増加するなど、ファミリーでのご利用が増えました。



■ さまざまな社会問題への取組み

各自治体における青少年健全育成条例等への対応としまして、本人確認の徹底や未成年者の入室管理の強化を実施、飲酒運転問題への対応としましては運転手への酒類提供を禁止する等、コンプライアンスの徹底を図っております。また、同業他社カラオケ店の火災死亡事故発生を受け、当社グループ店舗においても行政庁による点検に加え各店舗の施設・設備を再確認し、安全にご利用いただける店舗づくりに取り組んでいます。

今後もお客様に安心してご利用いただける「レストランカラオケ」を目指してまいります。



花粉症対応メニュー・レシピの提供を実施

“マザーフード”というシダックスの理念のもと、花粉症でお悩みの方々に少しでも快適に過ごして頂くことを目的に、グループ内の全国約1,200の店舗・施設において、花粉症の症状の緩和が期待できる食材を使用した料理の提供を実施しました。

全国302のレストランカラオケ店舗では、4種類の料理・ドリンクの販売に加え、「花粉症対応アドバイス」のリーフレットを作成しお客様へご案内しました。また、全国約900箇所の社員食堂等の受託給食店舗・施設にて、約100種類の対応メニューの中から、店舗・施設内において花粉症対応食材とその効果に関する情報をポスターやテーブルメモにてご提供しました。



“マザーフード”メニューフェアを開催

“マザーフード”メニューフェアは、シダックスがグループで共有する“マザーフード”(母なる地球が育んだ豊かな大地と海の恵みを、全てのお客様に母親のように真心を込めてお届けすること)という考え方に則って企画され、その時々季節を感じさせる「安心・安全」な食材を、「真心」を込めて調理してお客様にお届けするグループ共通のメニューフェアを開催しました。

レストランカラオケや社員食堂、病院、学校、スペシャリティーレストラン等グループ内の全業態約3,000の店舗・施設において、秋のフェアでは北海道今金町のブランドじゃがいも「今金男爵」を、春のフェアでは神奈川県三浦市初声町の甘いキャベツを使用し、それぞれの素材の持ち味を生かしたメニューを提供しました。“マザーフード”のシダックスは今後も、「安心・安全」、そして楽しい「食」を通してお客様の健康創造に寄与するさまざまな活動を推進していきます。





連結財務諸表

連結貸借対照表

	単位：百万円	
	当期 平成19年3月期	前期 平成18年3月期
(資産の部)		
流動資産	39,188	33,129
現金及び預金	16,760	19,454
受取手形及び売掛金	14,065	9,130
たな卸資産	2,133	1,378
繰延税金資産	2,845	855
その他	3,502	2,373
貸倒引当金	△119	△63
固定資産	86,832	52,001
<有形固定資産>	36,504	30,237
建物及び構築物	30,201	26,860
土地	3,421	1,136
その他	2,881	2,240
<無形固定資産>	21,654	1,010
のれん	20,195	—
その他	1,459	1,010
<投資その他の資産>	28,672	20,753
敷金及び保証金	11,550	11,501
繰延税金資産	10,040	2,501
その他	9,956	9,032
貸倒引当金	△2,874	△2,280
資産合計	126,020	85,131

	単位：百万円	
	当期 平成19年3月期	前期 平成18年3月期
(負債の部)		
流動負債	50,835	33,660
支払手形及び買掛金	10,672	9,255
短期借入金	3,623	1,344
一年内返済予定の長期借入金	15,047	11,533
一年内償還予定の社債	525	75
未払金	5,108	3,111
未払費用	7,016	—
未払法人税等	2,766	990
ポイント引当金	292	—
賞与引当金	2,840	1,669
その他	2,943	5,679
固定負債	42,847	21,752
社債	1,925	425
長期借入金	38,376	18,161
退職給付引当金	398	—
役員退職慰労引当金	565	508
連結調整勘定	—	1,568
繰延税金負債	496	506
その他	1,085	582
負債合計	93,682	55,412
(少数株主持分)		
少数株主持分	—	373
(資本の部)		
資本金	—	8,930
資本剰余金	—	8,112
利益剰余金	—	12,454
其他有価証券評価差額金	—	195
自己株式	—	△347
資本合計	—	29,345
負債、少数株主持分及び資本合計	—	85,131
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	8,930	—
資本剰余金	8,111	—
利益剰余金	13,347	—
自己株式	△349	—
株主資本合計	30,039	—
評価・換算差額等		
其他有価証券評価差額金	154	—
為替換算調整勘定	179	—
評価・換算差額等合計	334	—
少数株主持分	1,963	—
純資産合計	32,337	—
負債純資産合計	126,020	—

連結損益計算書

	単位：百万円	
	当期 平成19年3月期	前期 平成18年3月期
売上高	175,150	157,950
売上原価	151,056	137,103
売上総利益	24,094	20,847
販売費及び一般管理費	16,185	14,487
営業利益	7,908	6,359
営業外収益	895	417
営業外費用	864	755
経常利益	7,939	6,022
特別利益	185	250
特別損失	3,340	2,988
税金等調整前当期純利益	4,783	3,283
法人税、住民税及び事業税	3,825	1,873
法人税等調整額	△ 491	815
少数株主損失	77	13
当期純利益	1,527	607

連結剰余金計算書

	単位：百万円	
	前期 平成18年3月期	
資本剰余金期首残高		8,098
資本剰余金増加高		13
自己株式処分差益		13
資本剰余金期末残高		8,112
利益剰余金期首残高		12,483
利益剰余金増加高		607
当期純利益		607
利益剰余金減少高		636
配当金		532
役員賞与		104
(うち監査役分)		(3)
利益剰余金期末残高		12,454

連結株主資本等変動計算書

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高	8,930	8,112	12,454	△ 347	29,149	195	—	195	373	29,718
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 529		△ 529					△ 529
役員賞与			△ 106		△ 106					△ 106
当期純利益			1,527		1,527					1,527
自己株式の取得		△ 0		△ 1	△ 2					△ 2
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額(純額)						△ 41	179	138	1,590	1,728
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 0	892	△ 1	890	△ 41	179	138	1,590	2,619
平成19年3月31日残高	8,930	8,111	13,347	△ 349	30,039	154	179	334	1,963	32,337

連結キャッシュ・フロー計算書

	単位：百万円	
	当期 平成19年3月期	前期 平成18年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,256	8,637
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 27,341	5,033
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,916	△ 6,970
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	0
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△ 3,153	6,700
現金及び現金同等物の期首残高	19,203	12,503
現金及び現金同等物の期末残高	16,049	19,203



単体財務諸表

貸借対照表

	単位：百万円	
	当期 平成19年3月期	前期 平成18年3月期
(資産の部)		
流動資産	26,614	28,393
固定資産	57,341	36,210
有形固定資産	1,693	1,784
無形固定資産	1,019	762
投資その他の資産	54,628	33,662
資産合計	83,956	64,603
(負債の部)		
流動負債	17,049	10,466
固定負債	29,355	17,720
負債合計	46,405	28,186
(資本の部)		
資本金	—	8,930
資本剰余金	—	15,429
利益剰余金	—	12,401
その他有価証券評価差額金	—	3
自己株式	—	△ 347
資本合計	—	36,417
負債資本合計	—	64,603
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	8,930	—
資本剰余金	15,429	—
利益剰余金	13,537	—
自己株式	△ 349	—
株主資本合計	37,547	—
評価・換算差額等	3	—
純資産合計	37,550	—
負債純資産合計	83,956	—

損益計算書

	単位：百万円	
	当期 平成19年3月期	前期 平成18年3月期
営業収入	7,320	6,899
役務提供等収入	4,156	4,775
不動産賃貸収入	636	618
配当収入	2,527	1,504
営業費用	4,386	4,794
不動産賃貸原価	580	530
販売費及び一般管理費	3,805	4,264
営業利益	2,934	2,104
営業外収益	579	628
営業外費用	555	413
経常利益	2,958	2,319
特別利益	55	60
特別損失	748	51
税引前当期純利益	2,265	2,329
法人税、住民税及び事業税	490	△ 159
法人税等調整額	22	785
当期純利益	1,752	1,703
前期繰越利益	—	10,697
当期末処分利益	—	12,401

利益処分

	単位：百万円	
	当期 平成19年3月期	前期 平成18年3月期
当期末処分利益	—	12,401
利益処分額	—	616
配当金	—	529
役員賞与	—	87
(うち監査役賞与金)	—	(1)
次期繰越利益	—	11,784

株主資本等変動計算書

	株主資本								評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計					
平成18年3月31日残高	8,930	15,178	250	15,429	12,401	12,401	△ 347	36,413	3	3	36,417
事業年度中の変動額											
剰余金の配当					△ 529	△ 529		△ 529			△ 529
役員賞与					△ 87	△ 87		△ 87			△ 87
当期純利益					1,752	1,752		1,752			1,752
自己株式の取得							△ 1	△ 1			△ 1
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)									△ 0	△ 0	△ 0
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	1,135	1,135	△ 1	1,134	△ 0	△ 0	1,133
平成19年3月31日残高	8,930	15,178	250	15,429	13,537	13,537	△ 349	37,547	3	3	37,550



会社の概要 (平成19年3月31日現在)

商号	シダックス株式会社
英文商号	SHIDAX CORPORATION
設立年月日	平成13年4月2日
資本金	8,930百万円
従業員数	11,000名
本店所在地	〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘三丁目6番地3
本社事務所	〒150-0041 東京都渋谷区神南一丁目12番13号 渋谷シダックスビレッジ

役員 (平成19年3月31日現在)

代表取締役会長	志太 勤	取締役	小林正雄
代表取締役副会長	若松正雄	取締役	大原登志
代表取締役社長	志太勤一	取締役	フォルトゥナート・ニック・バレンティ
専務取締役	遠山秀徳		
常務取締役	藤田一郎	監査役(常勤)	鈴木興一
取締役	渡邊一民	監査役(常勤)	重泉良徳
取締役	小柴宏美	監査役	榎 国男
取締役	大津 宏	監査役	山本 征
取締役	鮫島文雄		

注) 監査役重泉良徳及び監査役山本 征の両氏は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

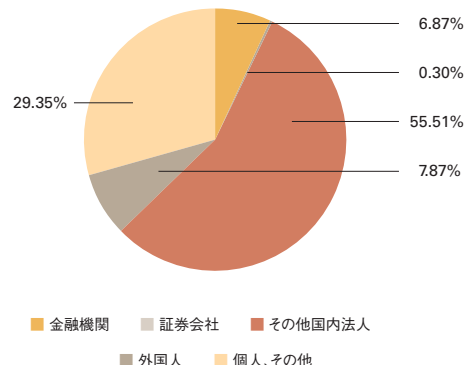
株式の状況 (平成19年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	1,400,000株
発行済株式の総数	357,214.62株
株主数	19,154名
大株主(上位10位)	

株主名	所有株数(株)	出資比率(%)
志太ホールディングス株式会社	121,764.74	34.08
株式会社志太起業研究所	35,403.26	9.91
株式会社シダ・セーフティ・サービス	33,778.00	9.45
志太 勤一	20,833.56	5.83
志太 勤	18,719.32	5.24
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	9,842.00	2.75
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505019	6,260.00	1.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,217.00	1.74
志太 正次郎	6,049.26	1.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,648.00	1.58

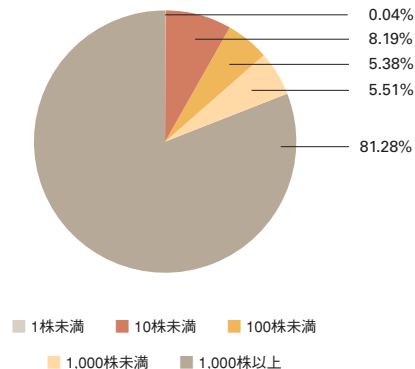
所有者別株式分布

(平成19年3月31日現在)



所有株数別株式分布

(平成19年3月31日現在)





株主優待のご案内

3月31日、9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主様に対し、それぞれ、以下の基準により、カラオケ店舗でご利用頂けるレストランカラオケ優待券を贈呈いたします。

贈呈基準	1株以上5株未満→ ルーム料金1,050円(税込)割引券15枚 5株以上 → ルーム料金1,050円(税込)割引券45枚
利用方法	全国のレストランカラオケシダックスにて、ルーム料金の支払いとして、現金との併用又は、優待券のみでご利用いただけます。なお、5名様以下のご利用時は2枚まで、6名様以上のご利用時は利用枚数に制限はありません。 ウィークデイパック、ウィークエンドパック等のご選択の場合、会計総額(税込)の5%を割引とさせていただきます。(1組様1枚限り)
有効期限	3月31日現在株主様への優待券 →発行された翌年の6月30日まで 9月30日現在株主様への優待券 →発行された翌年の12月31日まで

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
定時株主総会の基準日	3月31日
期末配当の基準日	3月31日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (連絡先)	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-78-2031
各種手続き用紙のご請求先	フリーダイヤル 0120-87-2031
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。 URL http://www.shidax.co.jp/ir/koukoku ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行される日本経済新聞に掲載して行います。